

(様式第4号) 市民による事業評価(地域リーダーの育成) 会議概要

1 審議会名	市民による事業評価(地域リーダーの育成 第7回)
2 日時	平成25年9月30日(月曜日)午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	上田市役所 南庁舎5階 第3・4会議室
4 出席者	大井定雄TL、関美佐子STL、長崎理恵子委員、鈴木永委員、西沢宗夫委員 丸山かず子委員、宗田光一委員、柳沢裕子委員、山田英喜委員
5 市側出席者	山宮市民参加・協働推進課長、鳴沢福祉課長、神林中央公民館長 倉沢塩田公民館長、綿内川西公民館長、北沢市民参加・協働推進担当係長、 深町健康福祉調整担当係長、上原川西公民館次長 中村行政改革推進室長、西澤行政改革推進係長、他行政改革推進室2人
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成25年10月4日

協議事項等

1 開 会(中村行政改革推進室長)
2 チームリーダーあいさつ(大井チームリーダー) 以下、チームリーダーを「TL」、サブチームリーダーを「STL」
3 議 事
(1) 前回会議録の確認 ・修正なく承認
(2) 評価のまとめについて ・各委員の評価結果の集計資料に沿い、事務局から説明
ア「地域づくりコーディネーター養成講座」について
(TL) この事業については、委員全員が「改善して実施」という評価になった。改善のポイントとして4つにまとめたので、これについて審議をお願いしたい。
(委員) 「地域福祉推進リーダー養成講座」にも言えるが、受講した後の活躍の場の確保が継続につながっていくと思うので、検討してもらいたい。地域に戻ってからリーダーとしてやっていく場が確保されれば広がって行くのではないか。
(事務局) 改善のポイントとして加えてもいい。
(TL) 「地域づくりコーディネーター養成講座」については、「改善して実施」という評価とし、講座を受講した後の活動の場を設けることを改善のポイントとして加えることとした。
イ「わがまち魅力アップ応援事業」について
(TL) この事業については、委員全員が「改善して実施」という評価になった。改善のポイントとして3つにまとめたので、これについて審議をお願いしたい。
(委員) 市長への提案の形式は、どのようになるのか。
(事務局) 資料「市長への提言について(案)」3頁以降の形式を予定している。
(委員) 各委員の意見が市長へ説明されるのか。
(事務局) 3チーム合同で、各チームリーダーから資料3頁の部分を読み上げ市長に渡し、その後、各チームリーダーから5分程度で全体的な話をしていただき、20~30分程度の市長との懇談の時間を設けたいと考えている。
(委員) 資料『「評価結果」のまとめ用資料』の位置づけは。
(事務局) 委員の意見を整理したもので、提言書に加えたいと考えている。
(委員) 『「評価結果」のまとめ用資料』の文章は、表現が柔らかくなってしまっていると思う。議論の段階では、もう少し厳しい意見が出ていたと思うし、上田市全体の魅力アップにつ

ながるようにという議論もあったように思う。問題点の指摘、また、非難もあったかと記憶しているが、そのような意見が柔らかに表現され過ぎている。

(事務局) これまでの議論の中で出された意見については、今年度の「地域づくりコーディネーター養成講座」の計画に当たっても極力反映させていただいた。また、「わがまち魅力アップ応援事業」についても、今年度から制度が変更となったが、内容について反映した部分もある。

(委員) 「わがまち魅力アップ応援事業」個々の事業に対しての改善等の意見は出さずに、全体とし事業の方向性を提案するのか。

(事務局) 当該事業で採択される事業はとて多く、また、代表して2つの事業の現場を視察しただけであるので、個々の事業に対する評価は難しい。よって、事業全体として意見をいただければと思うが、このような事例が見受けられるという例示であれば提言書で触れることは可能と思う。

(委員) 『「評価結果」のまとめ用資料』中で実績報告の場について、で地域協議会について触れられているが、例えば、塩田地域協議会ではきちんとした実績報告の場があるが、そうでないところもあり発表の形態も様々であるため、実績報告の実施方法について統一的にされた方がいいと思う。実施事業を報告し、評価してもらうことが重要であるので、提案でもその点について強調したほうがいいと思う。

(T L) 「市長賞」を設け表彰するという提案についてはどうか。

(事務局) 市の表彰において、まちづくり表彰もあるので、その中で取り上げるのも一案かと思う。

(委員) これまで「市長賞」については一度も議論されず、事業評価調書の意見として記載されているに留まっているので、提案書に含めるのはいかがかと思う。

(T L) 「市長賞」と具体的な表記は避け、表現を工夫することとしたい。

(委員) 補助金が無くなれば事業が終わってしまうことが問題であり、いかに継続させるかが課題であるということについても議論したと思うが、その対策についても記載したほうがいいのではないか。

(T L) 「わがまち魅力アップ応援事業」が、地域リーダーの育成につながっているかについて、が議論のポイントであるが、今の意見については、個々の事業そのものに踏み込まないと判断できない。「わがまち魅力アップ応援事業」全体については、改善が必要であるという評価でいいと思われるが、個々の事業については評価の対象としていないため、あくまで今まで審議したことをまとめることにしたい。

(委員) 提出された事業評価調書から改善のポイントがまとめられているが、実際議論では、広報の充実や、将来的な見直しの方向性が中心に議論されたと思う。この場で議論したポイントを主に記載してほしい。

(T L) 本日の意見も踏まえ、表現を検討したいと思う。

ウ「地域福祉推進リーダー養成講座」について

(T L) この事業については、「改善して実施」という評価になった。改善のポイントとして2つにまとめたので、これについて審議をお願いしたい。

(委員) この事業は充実させなければならないと思うが、表現が抽象的であるので、もう少し具体的にこういうことをやるということを記載すべきと思う。リーダー育成に留まらず、具体的な対策を打ち出したほうが効果のある提案になると思うが。

(T L) 全体の評価として「廃止」とした委員が3人いるが、年1回では効果がないということで「廃止」の評価であった。また、「改善して実施」の評価の中には、複数回開催すべきという意見もあったが、今後の方向としてはどうか。

(事務局) 当講座は地域福祉計画に基づいて実施しているが、市としては、先ず、地域の方に自分の地域にどのような方がいるかを把握していただきたいということで、要援護者の登録制度を進めており、これに基づく「住民支え合いマップ」を全自治会で作成してもらうように取り組んでいる。

また、地域の単位として自治会を考えているが、自治会の中で様々な人の参加により福祉を推進するリーダーとして組織が作られ、それが小中学校単位にまで広がり連携できるようコーディネート機能ができればと考えている。

しかし、現段階では、地域のことを把握するということを進めるため「住民支え合いマップ」の作成から始めているので、地域福祉推進リーダーは、そういったものに関わっていきける方を想定している。

(委員) 取組方については、自治会に頼るだけではなく、行政として高齢者、弱者対策に踏み込んでいかなければと感じる。上田市は住みよいまちであるとアピールできるまでにしなければならないので、行政が前面に出なければならないと思う。

(委員) 地域福祉推進リーダーの具体的な役割についてはこれまで示されてこなかったが、具体像が示されないと民間との連携や協働といっても何を協働していいかわからず、リーダー像が見えてこない。

また、リーダーの役割となる方は、自治会の中でも多くの方が携わることで裾野が広がり、結果的に多くの方が地域福祉に関わることになると思う。全てを行政が担うことは無理であるので、行政としてどのような支援をするのかということをも明確にしていくべきで、リーダーの養成として何をやるべきなのかより明確にするべきと思う。

(事務局) 一言で言えば「住み慣れた地域で、ともに支え合い、生きがいを持ち、健康で安心して生活できる社会の実現」を目指しており、その中のひとつの取組として「住民支え合いマップ」がある。

住民どうして情報を交換しながら「共助」し、住み慣れた地域で誰もがお互い支え合いながら暮らせることを目指していきたい。

(委員) 皆さんの意見はもっともと思うので、表現として具体性の持ったものを加えてほしい。

(委員) 何を狙っているかはっきりさせた講座内容に充実させる必要がある。また、地域との連携について指針等を行政として整備しておかないと、部署によって連携の仕方がバラバラになってしまうと思う。市民参加・協働推進課、公民館、教育委員会等とも連携しないと、地域福祉推進リーダーひとりでは出来ることにも限りがあるので、部局間の連携、地域との連携は十分考慮してほしいと思う。

(事務局) ご意見のとおりで、地域福祉推進リーダーとしての目的が伝わっていない部分があったので、目的を明確にした講座内容とする等検討していきたいと思う。

(委員) この講座だけで整理する問題ではなく、行政サービスとして高齢者、弱者対策をどうするかという大きな問題と思うので、踏み込んだ提案にした方が、市の関係部局も具体的な対応ができると思う。

(T L) 今回は、「地域福祉推進リーダー養成講座」事業に対する評価を行っているのですが、その点については、総括の中で反映できればと思っているのでご理解いただきたい。

エ「農ある里山暮らしのすすめ講座」について

(T L) この事業については、「改善して実施」という評価になった。改善のポイントとして3つにまとめたので、これについて審議をお願いしたい。

(委員) 市では新規就農、それに伴い人口を増やそうという取組みを行っているのか。例えば、佐久市はJRとタイアップしているが、今後、新規就農者の育成が大きなポイントと思う。農業をやりたいと希望する方もたくさんいると思うので、行政主導で取り組むべきではないか。提言に加えられるかと思うが。

(T L) 今回は、塩田公民館主催の当講座に対する評価であるので、それに対する意見を挙げてほしい。

(委員) 確かに評価は当講座に対するものであるが、大変いい事業と思うので、当講座にこだわらず、行政に対し様々な提言することは非常に大切と思うが。

(T L) 新規就農者対策は、言われるとおり大変重要なことと思う。しかし、今回議論しているのはこの講座についてであるので、それについての意見をお願いしたい。

(委員) 当講座は、毎年参加人数も増えているので、継続していかねばと思う。塩田地域で行うから大勢が受講すると思うので、塩田地域の特性を生かした講座を考えなければならぬと思う。

また、座学で終わるのでなく、実際に農作業をしながらリーダーを育成したり、健康の視点も取り入れるなど、工夫を凝らした講座を検討してもらいたい。

(T L) 地域性を出すこと、また、座学だけでなく実践的なものとしていくことを改善のポイントに加えたいと思う。

オ「川辺里山・水辺をつなぐ会」について

(T L) この事業については、「拡充して実施」という評価になった。改善のポイントとして2つにまとめたので、これについて審議をお願いしたい。

(委員) この事業は、小さな単位での活動が留まる市民団体が多い中で、ひとつの目的のために地域で集まり、活動をしている会であるので、モデル事業としてもいいと思う。「廃止」という評価の中には、一部の地域に公費を投下するのはいかがか、という意見もあるようだが、これほど地域間の連携が上手くいっているのであればいいのではないか。

当事業は、様々な団体がひとつの目的に向かって連携できている例であるので、市のモデル事業に位置付けるべきと思う。

(T L) 地域内分権に向けても各種団体の連携は大切であり、最終的な住民自治組織においても、各団体が連携しないとなかなか前進しないので、この点については、モデル事業として「拡充して実施」という評価にしたい。

4 次回の開催日程について

・第8回 平成25年10月16日(水)

5 閉会